Cover History

— 表 紙 写 真 由 来 —

郷土をひらいた先人の偉業「仰西渠」

—愛媛県久万高原町—

愛媛県中予地方局農村整備第一課（久万高原町駐在）　**戒　能　保　夫**

1．はじめに

表紙写真は，「仰西渠」（こうさいきょ）と呼ばれる農業用水路である。愛媛県久万高原町役場（**図-1**）に近い場所にあり，松山市から国道33号を南に車で約40分，長らく交通の要衝であった三坂峠の下を三坂道路（平成24年3月開通）のトンネルで潜り抜けてからは僅かな時間で現地に到着することができる。

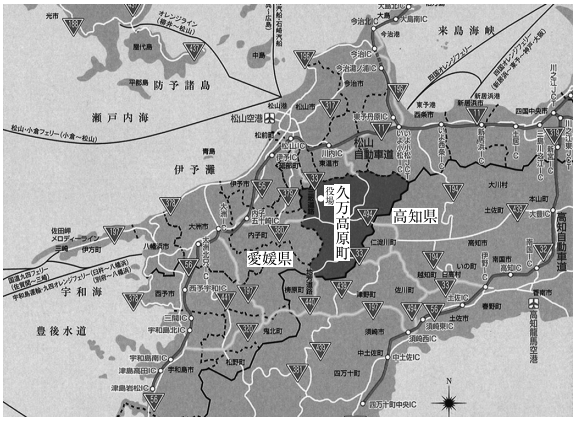

図-1　位置図

ここは，四季折々で趣きがあり，施設そのものが持つ機能美や独特の親水空間はとても面白いが，厳冬期は水路の岩肌から連続した氷柱が垂れ下がるなど，幻想的な景観（**写真-1**）を呈するので特にお勧めしたい。

写真-1　厳冬期の仰西渠上流部近景

2．施設の概要

仰西渠は，およそ全長57 m，幅2.2 m，高さ1.5 mの天然の岩盤を掘り込んだ水路（**写真-2**）であり，そのうち約12 mは暗渠（**写真-3**）となっている。

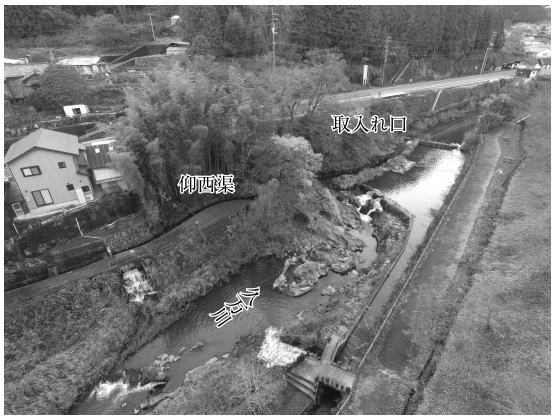

写真-2　仰西渠全景

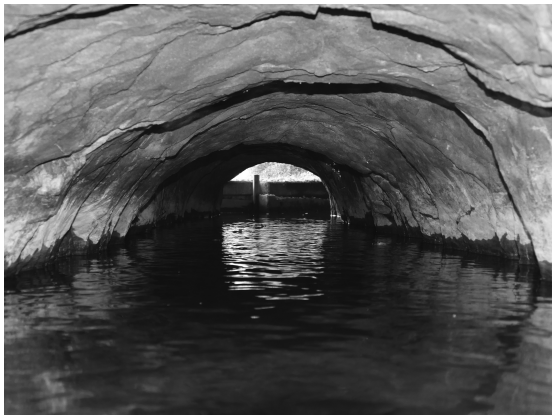

写真-3　仰西渠の暗渠部分

3．施設の役割

用水の取入れ口は，久万高原町の中心部久万盆地のほぼ中央を南北に貫流する仁淀川水系久万川の上流右岸にあり，下流に続く幹線水路「大井手水路」（一連の水路は仰西井手と呼ばれる）によって配水（**図-2**，**写真-4**，**5**）され，20 ha余り（最盛期はおよそ40 ha）の水田を潤している。

また，年間を通して水が落とされることはなく，上水道ができた昭和29年までは炊事以外のほとんどの生活用水を賄っており，現在でも防火用水や消雪用水などの地域用水として重要な役割を担っている。

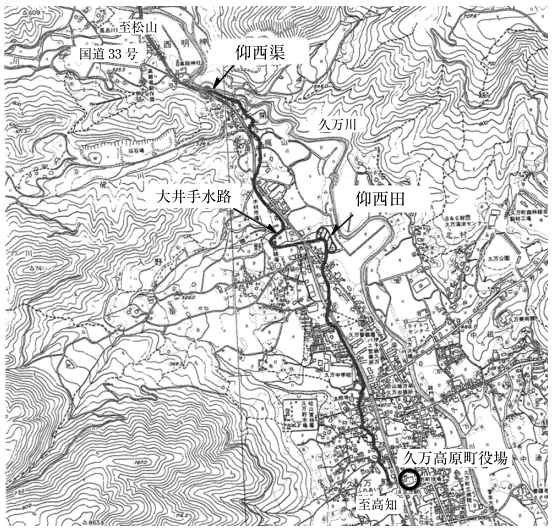

図-2　仰西井手地図

写真-4　仰西渠上空から下流久万盆地を望む

写真-5　中心街を通る大井手水路

4．仰西渠之碑

仰西渠は，江戸時代の明暦（1655～1658年）から寛文年間（1661～1673年）のころ地元商家山田屋の山之内彦左衛門光実（晩年に仰西と号した）が私財を投じ3年の歳月をかけて完成させた。その偉業を讃える石碑（**写真-6**）がすぐ上の丘に建てられている。

写真-6　仰西渠之碑周辺

○仰西渠之碑―碑文の訳文

伊予の国浮穴郡久万町村は，久万山の中にある一つの小さな村である。その村は重なりあった峰の上にあって，平らか（盆地のこと）で豊かな土地に恵まれた所である。けれども高い山の上なので水の便利が悪い。初め村人は北の方に水源を探した。入野村を過ぎて，天丸川と言う川をさかのぼり，ようやく水源を手にいれることができた。水源を見つけることができたと言っても，川底と両岸が固い岩盤で，その上，水の流れが早いので，川を堰いて，そこに別の川を作り，水を利用することができなかった。村人は皆で相談して，堰を作り，筧（かけひ）をかけて水をとることにした。筧をかけるためには，岸部に穴を開け，筧を受ける支えを作らなければならない。筧も数十つないでかけ渡し，入野村まで引いてきて，その後は，小さな井手に流して，皆の田んぼに水を引く事ができた。やれやれできたぞと，喜んで水田を作っていると，大雨に筧が流されてしまったりする。それも大雨のたびに流されるので，その修理には数十日かかることもある。（そうなるとやっと水がきたときには，稲が枯れてしまっていて，その年は豊作などと言うことは考えられない）大雨のたびに筧を修理していたのでは，ほかの作物を作る事もできない。そのために村人たちはずいぶんと苦労をしていた。

元禄という年に村に素晴らしい偉人が現れた。この人は水に苦しんでいる村人を，何とかして救う道はないものかと，いろいろ考えたすえに，自分の全財産を投げ出して，大勢の石工さんを雇い，久万川の安山岩の岩肌を削り，溝を造り，水を通すことにした。溝にしにくい所は穴を掘って隧道にした。溝（明渠）の長さは約48尺（約15 m），隧道（暗渠）の長さが約39尺（約12 m），溝の幅は4尺（約1.2 m），深さが約4尺（約1.3 m）。これを3年の間に造った。この溝が完成してから後は，灌漑用水に困ることがなくなり，お米のよくできる土地になった。

この偉大なる人はこれだけでは満足していないで，再度私財を投げ出し，露峰にある石切と三坂峠の鍋割坂の開鑿を行い，人や物の行き来がしやすくなるようにした。今年はその偉人がなくなって既に180年，人々は今でも偉人の業績の恩恵を受けており，偉人への感謝と尊敬の念は篤いものがある。村人の指導的立場にある人々は，『偉大なる人の業績を，人々の語り伝えに任せていては，長い間に忘れられたり，誤り伝えられたりすることになるかもしれない』と考え，皆で相談した結果，『どなたか適当な方にお願いして文章を作ってもらい，石に刻んで記録を残しておこう』ということになった。この偉大な人の性は山之内，名は彦左衛門で，年を取ってからは『仰西』と言った。翁のこの『仰西』という号をこの水路につけ『仰西渠』と呼ぶことにし，翁の功績を現すことにした。

翁の功績をたたえた碑文，

仰西渠から流れ出る水は，未来永劫に尽きることがないと同時に翁の名前も人々から忘れ去られることはない。

明治10年9月

（筆者注：寸法の記載などは本文と食い違いがある。）

このような疎水事業は藩において行うべきところであったであろう。当時の松山藩は久万盆地の水利に貢献が著しい仰西渠建設の功績を高く評価して一帯の山林をほうびとして授けることとしたが，仰西は固辞して受け取らなかったと伝えられる。

仰西没後，残念ながら大火でその活躍期の直接的な資料が焼失してしまったが，藩はこの業績を記念すべく事後調査を実施し，工事に使用した用具すべてを収集し，遺族に対しては再度賞与の話をしている。

また，学者に碑文の撰文を行わせているが，藩内の混乱で顕彰碑を造ることができなかったとされ，明治になって敬慕の念を抱く地元有志によって，やっとこの「仰西渠之碑」が建てられた。

5．仰西田の話など

農民の苦難を見て，被災を受ける施設から洪水被害には無縁の高性能な恒久施設へと生まれ変わらせた仰西であるが，自身が所有したとされる土地が今も残っている。大井手水路の中ほど，「仰西田」あるいは「仰西地」と呼ばれる46 a ほどの区画である。

時の変遷で地主は変わったが，農民にとってはここを耕作すること自体が大変名誉なことであり，その扱いも別格で，どのような干害時でも最優先で導水され，それが最近まで忠実に守られてきた。

また，許可が下りず断念されたが，過去に仰西を祭る神社建立の動きが活発化したこともある。

このようなことから，仰西に対する地元民の尊敬の念がいかに大きかったかを読み取ることができる。

6．県の取組み

仰西渠は，昭和25年に県の史蹟名勝天然記念物に指定された。これは江戸時代に造られた施設が，構築当時のまま現存し，今なお現役で活躍していること，公共施設建設が個人の力で私欲を排して成し遂げられたことなどが高く評価されたものである。

県では，このような歴史的財産であり，地域の生活に密着して活用されている施設を将来にわたって保全するべく，平成8年度から9年度にかけて農林水産省補助事業の「ふるさと・水と土保全モデル事業」を実施した。ハード事業で荒廃気味であった周辺環境の整備（**図-3**）を行うとともに，仰西にまつわる記録の集大成で，その後バイブルとして活用されている山之内仰西翁300年誌「仰西」を発刊するなどのソフト事業にも取り組んだ。

学校教育においては，小学校中学年の教材として活用され，町内では直接現地に出向いて授業を行う小学校も少なくない。また，入門的事例として農業土木系の学生たちが多数視察に訪れる（**写真-7**）。

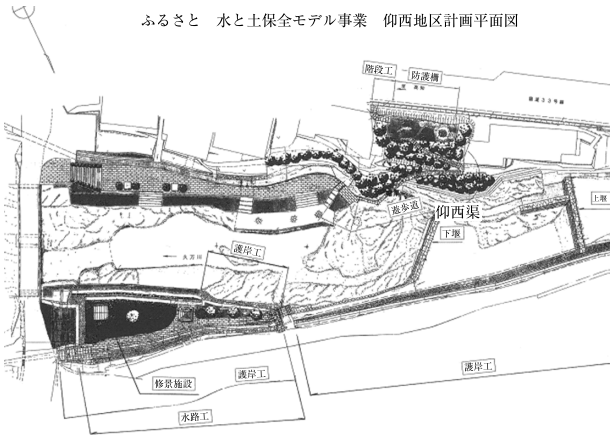

図-3　仰西渠周辺の環境整備

写真-7　過去視察に訪れた方々

7．最後に

今回の写真投稿は，図らずも手元にあった仰西翁300年誌を読む好機となった。大きな志と卓越した調整力を持ち，時代の声をしっかりと受け止めて生きた仰西について理解を深めることができた。

さらに，これを手本としたと思われる人力で開削された隧道（久万高原町直瀬の下直瀬龍宮用水隧道）がほかにもあることも知った。個人により成し得た仰西渠の美談に対し，こちらは請負人たちが貫通に失敗して不幸な状況に追い込まれたという点で対照的なものであったが，どうであれ，想像を絶したであろう困難に立ち向かったこれら郷土の先人たちの偉業には敬意を表さなければならないと改めて思った。

引用・参考文献

1）愛媛県松山地方局（現中予地方局）：仰西（山之内仰西翁300年誌）
2）愛媛県教育委員会：愛媛のくらし（小学校社会科中学年）
3）日本土壌協会：圃場と土壌338（1997）